

沼津工業高等専門学校研究報告

執筆の手引き

この手引きでは原稿執筆、投稿についての諸心得を記す。

1 投稿資格

投稿原稿の著者（連名の場合は少なくとも1名）は沼津高専（以下本校という）の教職員であること。

2 著作権

本研究報告に掲載された記事についての著作権は本校に帰属する。ただし、これは原著者が論文を公表する権利を制限するものではない。

3 投稿原稿

学術研究・教育に関する論文であって、研究・教育上有益な事実あるいは結論を有し、原則として他誌に未発表のものとする。他誌で既に発表している図表、データ、結論等を用いる場合には、自己の研究成果であったとしても、引用や参考文献等の形で示し、著作権侵害とならないよう注意すること。

4 投稿原稿の取り扱い

原稿の採否は研究報告委員会が決定し、執筆代表者に通知する。

5 原稿の書き方

原稿は、本手引きの末尾に示す図1および図2に従って作成すること。ページ数は8ページ以内に納める。

同じ題目（タイトル）の論文を分割して同じ号に掲載することは禁止する。

5.1 論文タイトル等および著者

原稿の第1枚目に、次の事項を順に書く。上部中央に適宜改行して、

本文と同じ言語で、a) 表題 b) 著者名、
本文が英語でない場合は英語で、c) Title d) Author、
c) Title では各語頭（冠詞、4文字以下の前置詞・接続詞を除く）を大文字にする。

d) Author はフルネームをヘボン式ローマ字で書く。

b) 著者名と d) Author の右肩に脚注印*、*1、*2、…を付ける。なお、d) Author は、YAMADA Taro のよ

うに姓名の順とし、姓をすべて大文字で書く。

これらの脚注として、本校教職員に対しては所属学科名（部署名）を、それ以外に対しては所属機関名等を、1ページ目左下部に罫線を引き区分して書く。使用言語は、上記a)～d)項と同様とする。

なお、本校の英語による学科名は以下の通りとする。

機械工学科：Department of Mechanical Engineering
電気電子工学科：Department of Electrical &
Electronics Engineering

電子制御工学科：Department of Electronic Control
System Engineering

制御情報工学科：Department of Control &
Computer Engineering

物質工学科：Department of Chemistry &
Biochemistry

教養科：Division of Liberal Arts

5.2 英文要旨

指定位置に200語以内の英文要旨を書く。はじめに太字で **Abstract:** と書いてから書き始める。ただし、人文系論文の場合は英文要旨を添付しなくてもよい。

5.3 キーワード (Key Words)

論文の内容を適確に示すとともに、迅速な分類・検索にも役立つことを旨とし、研究題目、英文要旨あるいは緒言の中から次の要領で選定する。

a) 一つのキーワードは3語以内を目安とし、5ワード以内とする。

b) できるだけ、狭義で、具体的意義をもつ語を選ぶ。

c) 名詞形を用い、最後の単語は単数形とする。

d) 元素名、核種名、化合物名、合金名等はフルスペルで示す。

e) 省略形は、その分野で広く通用するものに限る。

※7から移動

キーワードは以下の要領で書く。

英文要旨がある場合は、その後に1行あけて英文要旨の左端に合わせて **Key Words:** と書く。その後に2文字分空けて選定したキーワードを書く。各々は読点(,)で区切る。英語を原則とし、各語の最初の文字を大文字にする。

英文要旨がない場合の書き始めの位置は、末尾に示

す図 1 を参照のこと。

5. 4 本文

本文の最初に緒言またははじめに (Introduction)、本文の末尾に結言またはおわりに (Summary) をつける。なお、それぞれに番号を付ける。大見出し同様に、ゴシック体とする。

その間の本文は、必要に応じて大、中および小見出しを使用して区分する。

5. 4. 1 見出し

大・中・小 3 段階までの見出しは別紙テンプレートに示すように書き、それ以上必要な場合には適宜統一した形式で書く。

大見出しは、用紙の 2 行を 1 行として行間に書く。大見出しはゴシック体とする。

本文は、改行して書き始める。

5. 4. 2 表、図(写真)および記号説明一覧

本文中でのこれらの引用は順番号によって行い、最初の引用箇所では順番号を付ける。

5. 4. 3 脚注

脚注が必要なときは、本文中の語の末尾に、†1、†2、… を付け、同じページの下部に罫線を引いて区分して書く。

5. 4. 4 単位と記号

単位系と記号は所属学協会の基準に従うこととするが、国際単位系 (S I) に従うのが望ましい。単位記号の書き方は、量記号につく場合は [] 内に、数値につく場合は何も付けないで書くことを原則とする。

例 C [J · (m o l / K)]、 1 8 0 . 0 M P a

5. 4. 5 文献の引用

文献を引用する語句には、その末端に [] 付きで全編通しの順番号を付ける。引用文献の記事は、すべてまとめて最後の章に書く。

5. 5 参考文献

はじめにゴシック体で、**参考文献**と書く。これには見出しにつける番号はふらない。その後、改行して書き始める。

本文中に付した引用番号順に、1 件ごとに改行して書き、それぞれに必要な事項を記載する。

○会誌の場合

[順番号] 著者名：論文題名，雑誌名，巻，号，発行年，該当ページとする。

○書籍の場合

・書籍一冊を参考にした場合

[順番号] 著者名：書籍名，版表示，出版社名，出版年，総ページ数を記載する。

・書籍の一部分を参考にした場合

[順番号] 著者名：見出し・論文題名，書籍名，版表示，出版社名，出版年，該当ページを記載する。

○Web ページの場合

[順番号] 著者名：Web ページのタイトル，Web サイトの名称，入手先 URL，参照年月日を記載する。

○電子書籍の場合（※紙媒体の文献が存在しない，或いは著しく入手困難な場合に限る）

[順番号] 著者名：書籍名，版表示，出版社名，出版年，第 X 章，Y 項，Z 段落 (ebook-利用サービス名) を記載する。

例

参考文献

[1] 東正起，金子浩二：滑らかな曲線の評価基準，精密工学会誌，55，2，1990，pp. 25-29.

[2] 服部務他編：土壤微生物実験法，培風館，1995，295p.

[3] 竹田青嗣：近代哲学の新しい展開，自分を知るための哲学入門，筑摩書房，1990，pp. 171-215.

[4] 国立高等専門学校機構：日本型高専教育制度の海外展開と国際化の一体的推進，国立高等専門学校機構ホームページ，<https://www.kosen-k.go.jp/about/global/project/overview.html>，参照日：2022-8-20.

[5] スティール，クロード（藤原朝子訳）：ステレオタイプの科学，英治出版，2020，第 1 章，セクション 2，第 3 段落 (ebook-kindle).

6 表・図の書き方

6. 1 表 (Table)

罫線は必要最小限にとどめる。順番号は Table 1 または 表 1 のどちらかに統一する。題名欄の配置は、表の上側で中央配置とする。

6. 2 図 (Figure)

図の順番号は Fig. 1 または 図 1 のどちらかに統一する。題名欄の配置は、図の下側で中央配置とする。写真は図と同様に扱う。

6. 3 記号説明一覧 (Nomenclature)

ローマ字、ギリシャ文字、上付き (superscript)、下付き (subscript) の順に、それぞれアルファベット順 (同一文字は大文字、小文字の順) に書く。単位記号は [] で囲んで明記する。量記号の書き方は所属学協会の基準に従う。

7 その他

内容が他誌に発表されたものの解説もしくは論評の場合、その旨を本文末尾に書く。

別刷りは希望者のみに作成する。

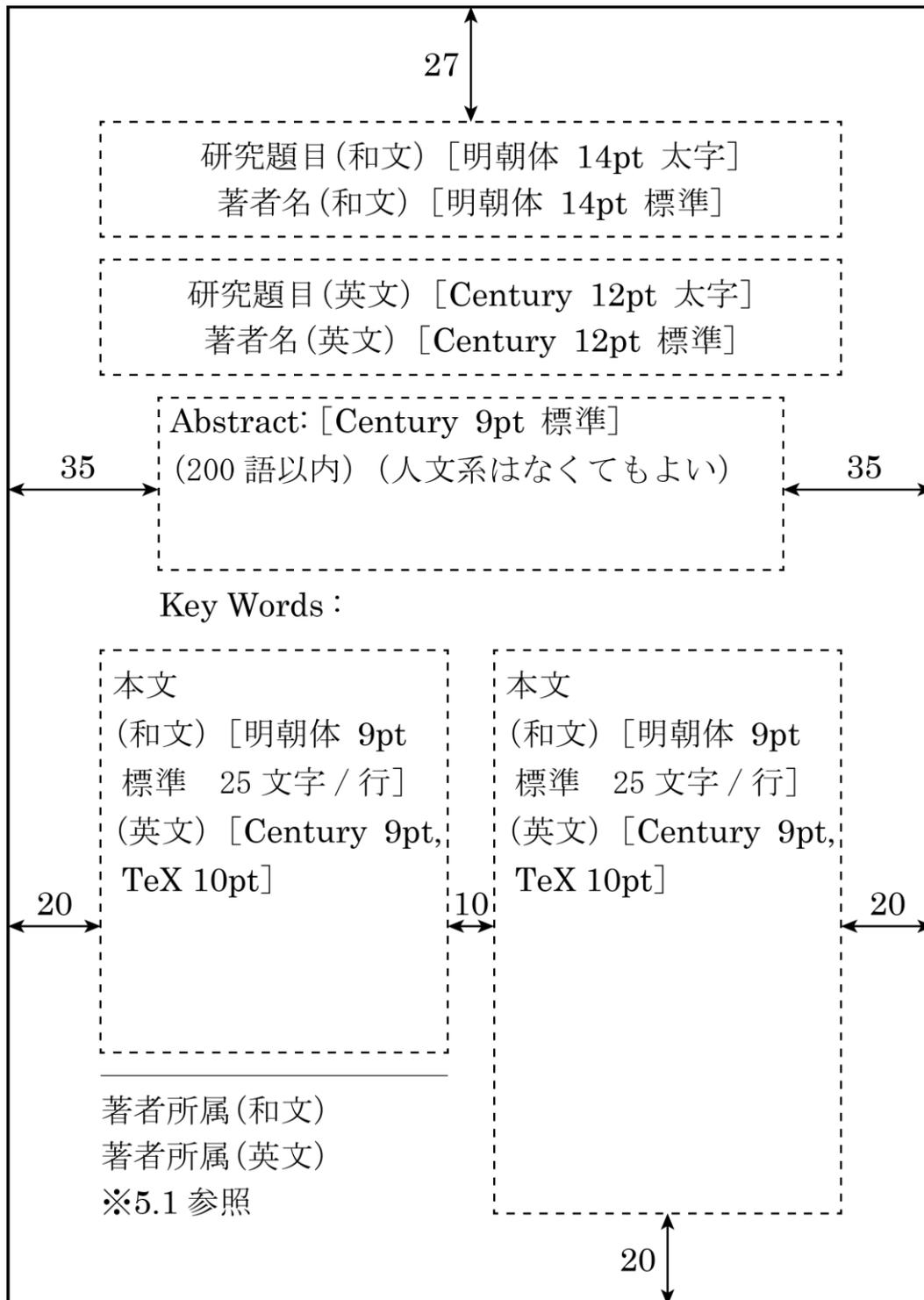


図 1 1 ページ目の体裁

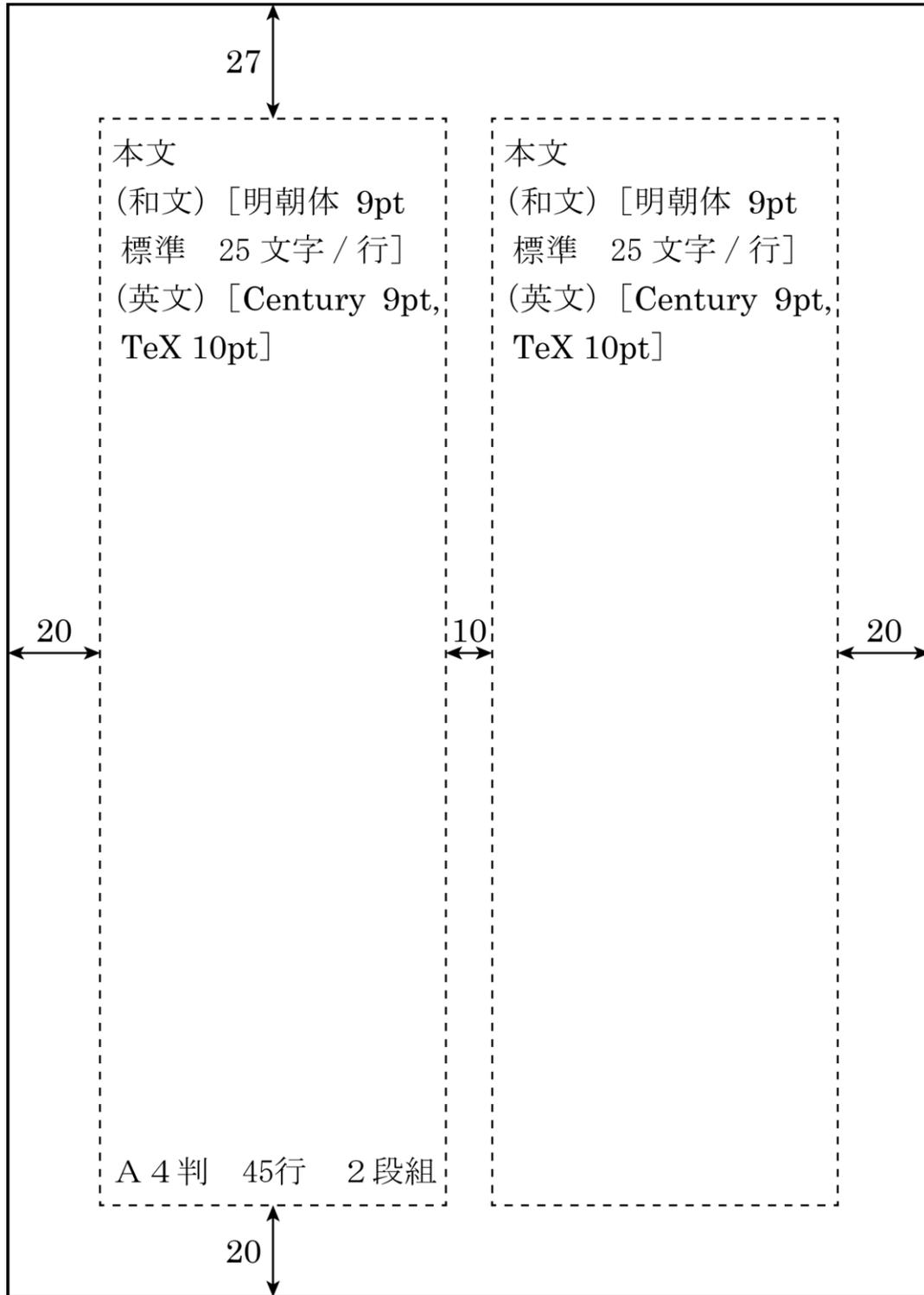


図2 2ページ目以降の体裁